

# 令和元年度 学校評価 パワーアッププラン

学校名	丹波市立 柏原中学校
-----	------------

## ○目標・方針

### 中期的な学校運営の目標・方針

『学校教育目標』  
「心豊かにたくましく、自立して生きる生徒の育成」～学び合い、支え合い、鍛え合う～

《めざす生徒像》  
①学んだことを活かせる生徒  
②自治的な集団づくりを通して成長する生徒

③目標をもって努力する生徒

## ○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	取り組み状況と改善の方策	
				自己評価の各観点に対する評価	
学校運営	家庭・地域との連携と信頼される学校づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での生徒の様子や行事などを学校により、学年・学級通報やホームページを通して、ていねいに家庭や地域に発信していく。</li> <li>・生徒の気になる情報を早めに保護者に連絡したり、保護者の質問に誠実に対応したりしながら、保護者との連携を深め、相談しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>・PTAの活動に積極的に参加、協力し連携を深める。</li> <li>・地域ボランティア活動に、積極的な参加を呼びかけたり、文化・福祉委員会を中心に自分たちで企画したりするボランティア活動に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人に対する教育の質の維持・向上、教職員一人一人の能力向上を目的とした「働き方改革」を推進する。</li> <li>・部活動の在り方については、週2日以上の休養日を設ける（大会等で土日の両日活動した場合は、振替休日を設ける。）など「一部活デー」を推進する。</li> <li>・教職員が心身ともに健康であるために、時間管理に対する意識改革を行う。そのために毎週水曜日を定期運動日とし、設定した時刻に教職員が退室できるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎基本の学力を定着させ、学んだことを活用する力を育てる。</li> <li>②自治活動を高め、人との関係づくりを通して自立する個を育てる。</li> <li>③目標をもって生徒が取り組み、それを支援する環境を整える。</li> </ul>
生徒指導	生徒自らが考え行動し評価する自治活動の推進	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人に対する教育の質の維持・向上、教職員一人一人の能力向上を目的とした「働き方改革」を推進する。</li> <li>・部活動の在り方については、週2日以上の休養日を設ける（大会等で土日の両日活動した場合は、振替休日を設ける。）など「一部活デー」を推進する。</li> <li>・教職員が心身ともに健康であるために、時間管理に対する意識改革を行う。そのために毎週水曜日を定期運動日とし、設定した時刻に教職員が退室できるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の「学び合い・支え合い・鍛え合い」も大切である。協力や分担をしながら業務改善以上をめざす。</li> <li>・教師が常に生徒の活動場所において、タイミングよくほめる、励ますなどの評価を行うことにより、生徒の意欲を高める。</li> <li>・いじめを自らの問題として受け止め、自分たちできることを主体的に考えて行動できる生徒の育成を通して「いじめを許さない学校風土」をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の「学び合い・支え合い・鍛え合い」も大切である。協力や分担をしながら業務改善以上をめざす。</li> <li>・教師が常に生徒の活動場所において、タイミングよくほめる、励ますなどの評価を行うことにより、生徒の意欲を高める。</li> <li>・いじめを自らの問題として受け止め、自分たちできることを主体的に考えて行動できる生徒の育成を通して「いじめを許さない学校風土」をつくる。</li> </ul>
教育課程	全職員の共通理解による組織的な生徒指導の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人に対する教育の質の維持・向上、教職員一人一人の能力向上を目的とした「働き方改革」を推進する。</li> <li>・部活動の在り方については、週2日以上の休養日を設ける（大会等で土日の両日活動した場合は、振替休日を設ける。）など「一部活デー」を推進する。</li> <li>・教職員が心身ともに健康であるために、時間管理に対する意識改革を行う。そのために毎週水曜日を定期運動日とし、設定した時刻に教職員が退室できるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人に対する教育の質の維持・向上、教職員一人一人の能力向上を目的とした「働き方改革」を推進する。</li> <li>・部活動の在り方については、週2日以上の休養日を設ける（大会等で土日の両日活動した場合は、振替休日を設ける。）など「一部活デー」を推進する。</li> <li>・教職員が心身ともに健康であるために、時間管理に対する意識改革を行う。そのために毎週水曜日を定期運動日とし、設定した時刻に教職員が退室できるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の「学び合い・支え合い・鍛え合い」も大切である。協力や分担をしながら業務改善以上をめざす。</li> <li>・教師が常に生徒の活動場所において、タイミングよくほめる、励ますなどの評価を行うことにより、生徒の意欲を高める。</li> <li>・いじめを自らの問題として受け止め、自分たちできることを主体的に考えて行動できる生徒の育成を通して「いじめを許さない学校風土」をつくる。</li> </ul>
課題教育	個に応じた個別的な特別支援教育の推進	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の「考える」「書く」活動を大切にする。ペアトーク、教え合い、小グループ学習などの効果的な学び合いと生徒が発言する機会を多く取り入れる。</li> <li>・各学期1回の授業研究、事後修習を全職員で行う。授業研究後の1週間を「授業参観ウィーク」として1人1時間は他の授業を参観する。</li> <li>・「学習の構え」をもとに学習規律を守った、安心して授業に集中できる環境づくりを行う。</li> <li>・話法を活用し、普段の生活につながる話し手と聞き手の育成を行う。また、子どものやる気を奮起させる教師の「評価言」を実践する。</li> <li>・授業のユニバーサルデザインを推進し、一人一人の生徒の困り感に対応した指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の「考える」「書く」活動を大切にする。ペアトーク、教え合い、小グループ学習などの効果的な学び合いと生徒が発言する機会を多く取り入れる。</li> <li>・各学期1回の授業研究、事後修習を全職員で行う。授業研究後の1週間を「授業参観ウィーク」として1人1時間は他の授業を参観する。</li> <li>・「学習の構え」をもとに学習規律を守った、安心して授業に集中できる環境づくりを行う。</li> <li>・話法を活用し、普段の生活につながる話し手と聞き手の育成を行う。また、子どものやる気を奮起させる教師の「評価言」を実践する。</li> <li>・授業のユニバーサルデザインを推進し、一人一人の生徒の困り感に対応した指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の「学び合い・支え合い・鍛え合い」も大切である。協力や分担をしながら業務改善以上をめざす。</li> <li>・教師が常に生徒の活動場所において、タイミングよくほめる、励ますなどの評価を行うことにより、生徒の意欲を高める。</li> <li>・いじめを自らの問題として受け止め、自分たちできることを主体的に考えて行動できる生徒の育成を通して「いじめを許さない学校風土」をつくる。</li> </ul>
※領域（3領域）	学校運営、教育課程、課題教育				

※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校運営、組織運営、生徒指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	進路指導、特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

- 1 教育活動全般を通じて生徒の「分かる・できる」を体験させながら思考力・判断力・表現力を身につけさせる。
- 2 全体の教育の質を維持・向上を図りながら、個々の生徒に対する個別の指導を充実させ、学力の向上をめざす。
- 3 生徒が中心となつた自立活動をより積極的に行い、校内はもちろん地域に向けた取組を推進する。
- 4 教職員一人一人の能力向上を図りながら、効率的に「働き方改革」を推進する。

令和2年3月19日

校長 大 横 芳 校長印



学校関係者評価のまとめ

- 1 生徒に学校生活を落ち着いて送れるとの素晴らしいを感じてほしい。今後も生徒が自己肯定感を育み、楽しく中学校生活が送れるように指導をお願いしたい。
- 2 様々な成果のある実践をされているとと思うので、全教職員が学校のスポーツマンだと意識して保護者や地域に応していくことでより開かれた中学校になると思います。

○学校関係者評価		自己評価の各観点に対する評価	自己評価の各観点に対する評価
本年度の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・学年便りやメールでの配信などで生徒学校での様子について、適切に発信している。</li> <li>・学校によりやホームページで日頃の取り組みをさらに発信してほしい。</li> <li>・PTA活動においても先生方も一緒に取り組んでいただきありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎基本の学力を定着させ、学んだことを活用する力を育てる。</li> <li>②自治活動を高め、人との関係づくりを通して自立する個を育てる。</li> <li>③目標をもって生徒が取り組み、それを支援する環境を整える。</li> </ul>